

II 審議の対象となった3事案と問題点

放送倫理検証委員会は第46回（2011年2月）の委員会において、次の3事案に共通する問題点に着目し、一括審議することに決定した。そのうえで、各当該局から提出された内部調査の報告を検討する一方、制作スタッフに対するヒアリングを行い、問題点を整理した。

以下では、各事案を記述の順に「本件放送1」「本件放送2」「本件放送3」と呼び、場合によっては番組名の略称を用いながら、委員会の判断を述べることにしたい。

本件放送1：テレビ東京『月曜プレミア！ 主治医が見つかる診療所』～あなたも元気ですっきりキレイ！ 腸から健康になる秘密大公開SP！？パワーで肌荒れ解消20歳若返り！～（略称「主治医」、2010年11月8日放送、13分20秒）

【概要】

番組全体は医療や健康に関する情報バラエティーであり、医師による専門的な解説に加え、途中で出題されるクイズや芸能人らのトーク等で構成されている。本件放送1は、この番組内で「酵素飲料と断食を組み合わせ、ダイエットと健康増進に成功した」女性を紹介したコーナーである。

このコーナーでは、女性のダイエット前とダイエット後の写真、ダイエットを始めるまでの再現映像などを交え、57歳の彼女が、酵素飲料と断食を組み合わせたダイエット法によって37歳の肌年齢となり、体重も60キロから47キロに減った等、めざましい効果があったことが紹介された。スタジオの芸能人らも「やったらできるかもな」などと語り、酵素飲料を試飲してみせる。

【問題発覚の経緯】

放送後、テレビ東京番組審査部のひとりが、番組で取り上げた酵素飲料や女性についてインターネット検索等を通じて調べたところ、彼女が当の飲料を販売している会社の経営者であることが判明した。同局は内部調査を行い、本件放送1が視聴者に事実と異なる印象を与え、情報の客観性が損なわれた旨の報告を当委員会に寄せた。また、2011年1月23日の番組『みんなとてれと』のなかでお詫びの放送をした。

【問題点】

本件放送1の何よりの問題は、酵素飲料を飲むなどしてダイエットに成功したと紹介された女性が、その酵素飲料を販売している会社の経営者だったことである。放送はこの事実について何も触れていないので、視聴者に、そのダイエット法が一般ユーザーによって効果の確かめられたものと誤認させかねないものとなった。

制作スタッフは仕事場や自宅などに女性を訪ね、打ち合わせや撮影を行っている。その際、女性との間に「(あなたは酵素飲料の) 広告塔ではありませんよね?」「ちがいます」とのやり取りがあり、スタッフは「彼女は広告契約をしているタレントではない」と判断した。しかし、それ以外の酵素飲料との関係については確認を行わず、女性が販売そのものにかかわる経営者だとは思ってもみなかったという。また、ロケ現場に居合わせた男性がいたが、「この男性が販売者かもしれないが、彼女自身は売っていない」と、こちらも確認をとらないまま判断していた。

番組制作の過程では、テレビ東京の番組制作幹部から、この女性が「販売に関係していないか確認するように」との指示が出され、さらに放送前のVTRチェックの段階でも同局番組審査部から同様の指摘があったが、現場の制作スタッフが、前述した判断をそのまま踏襲して「問題ない」旨を返答すると、それ以上の確認がされることなく、放送に至ってしまった。

本件放送2：毎日放送『イチハチ』～超ゴージャスな美女8人！世間が驚くお買い物女王No. 1決定戦 15億円でホテルをお買い物～（略称「お買い物女王」、2010年11月17日放送、5分45秒）

【概要】

この番組は特異な経歴や体験を持つ8人の出演者を紹介しながら、この8人と芸能人などのゲストがスタジオトークを展開する情報バラエティーである。本件放送2では、「セレブ」と称される女性たちの「世間とずれた」金銭感覚をテーマに、出演したある女性が15億円のホテルを購入する、というシーンを中心に撮影・編集し、放送した。

彼女はかつて宿泊して気に入り、オーナーに買い取りを申し出たという地方のあるホテルを訪れ、スイートルーム、部屋からの眺望、温泉の大浴場等のお気に入りのポイントを巡ったあと、支配人（実際は副支配人）とロビーで対面する。その際「3度目の交渉」とナレーションで説明される。2人の「前向きに考えていただければ」「かしこまりました」などのやりとりがあったあとテロップとナレーションで「具体的な購入の方向へ」と、あたかも近日中に売買が成立するかのような説明をし、「驚きのお買い物」の紹介が終わる。その後、スタジオにもどり、驚きや羨望を交えたトークがつづく。

【問題発覚の経緯】

本件放送2の放送後、視聴者からBPOに、ホテル売買の予定はなく、宣伝のための話題作りではないか、との意見が寄せられた。委員会の問い合わせに対して毎日放送は社内調査を行い、不確かな情報に基づき、行き過ぎた表現を行った放送であった旨の報告書を提出した。

【問題点】

放送では紹介されていないが、出演した女性が所属する会社が当該ホテルの宣伝等の業務を行っており、その会社の役員とホテルのオーナーが親子であった。それらを勘案すると、ここでの問題は、購入話それ自体が本当のことなのかをきちんと確認すべきであったのに、それがなされなかったことである。

現地を取材・撮影したスタッフのひとりはこの親子関係に気づき、番組のアシスタント・プロデューサーに電話して、「ホテルのPRに番組が利用されるのではないか」との懸念を伝えたが、同アシスタント・プロデューサーから、売買の交渉自体は存在するのだからかまわない、と指示され、ロケは続行されることになった。

そもそも彼女がホテルを買うつもりである、という情報は、彼女が所属する会社からもたらされたものであり、現地での取材・撮影も、その会社の差配のもとに行われた。

放送には、「3度目の交渉」というナレーションや、「具体的な購入の方向へ」というテロップとナレーションがあり、あたかも売買交渉が近日中に成立するかのよう描かれていたが、このような場合には必須であるはずのもう一方の当事者であるホテル側への取材や事実確認は、取材現場でも、その後の制作過程でも行われなかった。

本件放送3：毎日放送『イチハチ』～お坊ちゃまお嬢さま芸能人No.1決定戦 2011年初顔8人2時間SP NYに23軒の家を所有～（略称「お坊ちゃまお嬢さま」、2011年1月12日放送、8分35秒）

【概要】

本件放送3は、上記の本件放送2と同じ番組が年明けの2時間スペシャルにおいて、「お坊ちゃまお嬢さま」のひとりとして、「ニューヨークに23軒の家を持っている」女性を紹介したコーナーである。

ニューヨークをロケした映像は警備厳重で取材が難しい様子などを伝えながら、彼女が所有するという贅沢なアパートのキッチン、リビング、愛犬専用の部屋などの室内を映し出し、価格は約1億5000万円だと伝える。その後、街に出た女性は「わかります？ あの高い建物。あれにも私の物件が入っていますね」などと、数軒の物件を近隣の名所とともに案内する。

こうしたVTRを見たスタジオでは驚嘆の声が上がり、女性と他の出演者のあいだで、「購入されているのですか」「そうです。もし住まなくなったら売れますし」といったやりとりが交わされる。

【問題発覚の経緯】

本件放送3の放送後、番組中で紹介された部屋を知っているという視聴者から毎

日放送に、「あの部屋の所有者は別人である」との連絡があり、同局はすぐにニューヨークに調査担当者を派遣するなどの内部調査を行った。その結果、同局は「事実と異なる放送をした可能性が極めて高い」として、一連の経緯を当委員会に報告するとともに、プレスリリースや番組ホームページを通じて公表した。

【問題点】

本件放送3の最大の問題は、出演した女性が自分のものとして次々に紹介する物件について、所有を裏付けるための事実確認がいっさいされていないことにある。

ニューヨークに23軒の物件を所有云々の情報は女性本人からもたらされ、現地取材も彼女自身の段取りによって行われた。取材ディレクターは厳重警備の様子やロケ日程の変更等を日本にメールで連絡した際、チーフ・ディレクターから「物件が彼女のものであることを確認するように」と指示されたが、彼女からは立ち話のようなやりとりのなかで、自分のものである旨の返答を聞いただけであり、その他の事実確認はまったく行われなかった。また取材ディレクターは、室内を撮影した部屋の階数や部屋番号も失念していた。

なお、米国の不動産の場合、その所有関係を公的な書類等によって確認することは、日本の場合とちがって必ずしも容易ではない。しかし、売買契約書の写しなどの書類の提示を求めるのは困難な事情があったにせよ、取材対象の女性と同行した際に、彼女がそのアパートを所有した動機、日頃の利用状況、その部屋に関するエピソードなどを具体的に聞き出していれば、いずれにせよもう少し事実には迫れたはずだが、そのような取材が行われた形跡はない。